

やんばらあ～ねっと 2014年1月 第26号

2013年度全国自立生活センター協議会九州ブロック研修会

さじゅうにがつにちかごしまけんかごしま
去る12月2,3日に鹿児島県鹿児島

し市にてJIL九州ブロック大会が

かいさい開催されました。今回初めて九州

ブロック研修会に参加させてもらうことにな

り、なじみの人達と会えること、皆がどんな活動をしているのか研修会での情報

こうかんこうりゅうたいたのきたいけんしゅうのぞ
交換や交流に対する楽しみを期待し、研修に臨みました。

にちかんけんしゅうについてひつようひとじりつ
2日間の研修日程ではパネルディスカッション療ケアが必要な人たちの自立について

たかくじりつせいかつじっせんほうこくなかもだいとう
て)他、各地での自立生活の実践報告、仲間づくりと題したグループワーク等が

おこな
行われました。

なかきひじりつせいかつ
中でもとりわけ気を引いたのは自立生活セ

きたみわたなべてつやはっぴょう
ンター北見の渡辺哲也さんの発表でした

わたなべてつやしんこうせいなんびょう
た。渡辺哲也さんは進行性の難病

ことばで言葉やジェスチャーでのコミュニケーションができ

じりつせいかつなか
なくなってしまったのですが、自立生活の中でコミュニケーションは、自分の思いやりたいこ



つたためふかけつひとまかせいかつおくとを伝える為に不可欠なものとしてとらえており、人任せにしない生活を送るため、

ごじゅうおんひょうつかいちじくあことばほうほうひょう五十音表を使って一字ずつ組み合わせ、言葉にしてゆく方法をとっていました。表

もあるわたなべてつやかいじょしゃあたまなかひょうかいじょを持ち歩くのではなく、渡辺哲也さんと介助者の頭の中には表があり、介助

しゃ者が「あ」、「か」、「さ」、「た」、「な」…と行くだけなりよわたなべてつやを読みあげながら、渡辺哲也さんのアイコンタクトで発したい言葉を読み取っていくコミュニケーションを取っていました。壇上

でとてもスピーディトで発したい言葉を読み取っていくコミュニケーションを取っていました。壇上

でとてもスピーディーにコミュニケーションをとる渡辺哲也さんと介助者のやり取りに度肝を抜かれる驚き

かいまみしんらいかんけいかんしんたがなかんたんと、そこに垣間見える信頼関係には感心しました。互いに慣れてしまえば簡単なもの

はなのだと話していましたが、2,3文字くみ取れば単語葉)を予測して更にスピードに乗ってやり

とできつかりていければけわそうぞうじぶんじしん取りが出来る、そこにたどり着くまでの過程は険しかったものだろうと想像しながら、自分自身

ことばも言葉やジェスチャーでのコミュニケーションが難しい方に対して新しいコミュニケーション

しゅだんかんがおも手段を考えていければなあと思いました。

じりつせいかついがいかんれんきかんれんけいパネルディスカッションでは、自立生活センター以外の関連機関と連携してゆくのに

ひつようかんが必要素なものについて考えさせられました。

じりつせいかつじっせんほうこくおののの自立生活の実践報告では、各々の

じりつたいおもこんざはな自立に対する思いや、今後についてが話さ

じりつじりつくちされました。自立、自立ってよく口にするし、

わたしまわりしぜんつかことば私たちの周りではごく自然に使う言葉だ



かんたん たんじゅん かんじ もじ ひょうげん
けど、簡単なものでも単純なものでもない。漢字2文字で表現されるけど、それに
たい おも じゅうにんといろ おくふか あらた かん
対する思いは十人十色でとても奥深いものだと改めて感じました。

こんかい けんしゅう たん とうじしや たちはば かいじょしや たちはば そくめん
今回の研修では、単に当事者の立場、介助者の立場とどちらかの側面だけで
たが こんざい じょうきょう ふく たちはば かん
なく、互いが混在した状況を含めた立場というものを感じました。

じりつ たい おも はかし おも ほんにん ささ ひと
自立に対する思いは計り知れない。その思いをかなえるのは、本人、支える人たち、
しゃかい なかも いちれん なた しよう ひと
社会とのかかわり、仲間。一連するつながりで成り立つんだと。障がいがある人もない
ひと こんざい しゃかい たが ささ じつかん
人も混在する社会。インクルーシブって互いが支えあうものなんだなど実感する
けんしゅうかい
研修会でした。

オーストラリアと日本の福祉の違い

こんかい ほうじん ども い
今回、NPO法人共に生きるネットワーク
まなびやー ど やど しゅにん
まなびやー オーストラリア「土の宿」主任スタッフ
えとうゆうこ まね ふくし
えとうゆうこ まね ふくし
マップ衛藤優子さんを招いて、福祉におけるオーネー
にっぽん ちが とも まな ば
ストラリアと日本との違いを共に学ぶ場と



こうえんかい かいさい
して講演会を開催することになりました。

こうえん もくてき にっぽん かいざ
講演の目的は、日本における介護スタッフとしての経験とオーストラリアの大學生で
まな かんごがく りょうこく かいざ かんご ふくし ちが ひがく
学んだ看護学から、両国の介護、看護、福祉の違いを比較し、これからの自分らの住

ちいき しゃかい しょう しや りそう ふくし あ かた
む地 域から社 会における障 がい者への理想とされる福祉サービスの在り 方をどのように

けんとう あゆ とも まな ば おも おこな
検 討し歩 んでゆくのか、共に学 びあう場となればと思 い 行 いました。

さんか なか たん ないよう よ
参加する 中で単 なるサービス 内 容の良し

あ みくら ひかいご しや
恵しを見比べるためのものではなく、被介護 者

およ かいご かか ひと たようせい
及び介護に 関 わるすべての人の多様 性

にんしき かくこじん あ ふくし
を認 識し各 個人のニーズに合わせた福祉サ

ービスの必 要 性を 考 えられたらいいかなと

おも さんか かた しょう
思 います。参 加してくれた 方 は、障 がい

どうじしや みんせいいいん ふくしかんけい
当事者や 民 生 委員など福祉 関 係

きかん かた き
機 関の 方 などが来 て いました。



こうえんかい につぽん
講 演 会 では、日 本 からオーストラリアにスタディーツアーをしに行 った自立 生 活 センターイ

さきはまのりみ みなみ げんじょう こうきょうこうつうきかん の
ルカの崎 浜 紀美さんから 南 オーストラリアの 現 状 で、公 共 交 通 機 関に乗つたり、

じりつせいかつ ひと いえ ほうもん なか どうじしや せいかつ
自立 生 活 して いる人 の 家 を 訪 問 したりする 中 で、当事者 の 生 活 がどのよ う になつて

つた いただ せいかつ でんどう せつび しんか
いるのかを 伝 えて 頂 きました。その生 活 はカーテンも電 動 になつており設 備 は進 化 して

じつかん
い と 実 感させられた そ う です。

のち えとうゆうこ こうわ なか につぽん ちが かいじょ
この 後 にメインの衛藤優子さんの講話の 中 で、オーストラリアと 日 本 の 違 い は、介 助 と

じかん 時間のルーズさがあり、日本では施設に入っている方は、施設の職員によって
にちじょうせいかつ 日常生活のプランが、食事や、入浴、消灯の時間など様々な事が決められて
いるのですが、オーストラリアでは、多動性障がいの施設では障がい当事者が思うまま
しょくじ にゅうよく せいかつ おこな ほんにん とら に食事や入浴などの生活リズムで行っているそうです。本人のニーズにあった捉え
かた おも せいかつ き 方で主に生活していっているのだなと気づかされました。



あと、医療に関する事は通常、ガンや

いた はっせい びょうき いしゃ 痛みを発生する病気であれば、医者の

しじ 指示によってモルヒネを注射しますが、当事

しゃ はんだんのうりよく いしゃ しんらい 者の判断能力があり医者との信頼

かんけい 関係がある方に応じては、痛みを発生した場合、患者自身がボタンを押せば

じどうてき 自動的にステロイドの注入ができるシステムになっているので、医療のあり方も国に応

こと おも じて異なってくるのだと思いました。

わたし まやくかんじや ひと おお こと やくぶつかんけい それと、私は麻薬患者ですという人が多くいるという事でした。これは薬物関係の

そだ ほうてき はん す ほうりついはん マリファナを育てることは法的に反しないのでO.K.ですが、吸うことは法律違反となつていて

につぽん そだ こと ちが へん おも げんてん て、日本では育てる事もできないので、この違いは変かなと思ひます。まず、原点の

もと そだ きんし ほうりつ きせい さだ かた よ おも 基の育てることから禁止し、法律で規制し定めた方が良いと思ひます。

この講演会で自分が気づいた事は、本人のニーズで物事を捉え、日常生活

を行なうという事が大切ではないかと思いました。

土の宿 月見会in伊江島

11月となり、心地よい冷たい風が沖縄

本島北部にも吹いて来ました。今月は

十五夜が17日に来るので、近くの事業

所関係者で月見会をやろうという事

で、伊江島の土の宿で行なう事になりました。そこで、餅つきとバーベキューをしながら、互い

の親睦が深まっていけるように満月を見ながら語り明かしました。



はじめての餅つきをやる中で、どういう風にやればいいか解らぬネットで調べたりしながら

おこないました。餅をついている音は思わず「よいしょ！」と言いたくなる音でした。餅をつく

ひとかえひと人と返す人のコンビネーションがないと手がはさまれるので、よっぽど息が合ってないと血まみれ

の餅を食べる羽目になるなど思いました)。

あと よきよう この後、余 興などもあり、フラダンスや、「花」

うた こじん さくしきよく うた の唄や、個人で作詞作曲をした唄など、コラボレーションもありました。

ば また、この場からいい出会いがあるように LED

ゆびわ ライトがつく指輪のプレゼントの寄贈がありました。



いえじま ふくしかんけいきかん かた たすうき しょう しや せいかつ
伊江島の福祉関係機関の方も多数来てくれました。障がい者の生活の

じょうきょう かた あ なか こんご かつどう れんけい ふか つきみ
状況などについて語り合う中で、今後の活動や連携を深めていくような月見

かい ひら でき
会を開くことが出来ました。

ほんとう たの
本当に楽しかったです。